

市民公開反核医師の会 第14回全国大会・記念講演会

激動の朝鮮半島と核

―被爆国の役割とトランプリスク



講師：太田 昌克（おおた まさかつ）

共同通信編集委員、論説委員兼務

参加費：無料

2018年2月の平昌冬季オリンピックを契機に、南北朝鮮の話し合いの機運が高まり、4月27日に南北首脳会談が行われた。南北会談では、朝鮮戦争の「休戦協定」や「非核化」について協議される模様だ。

また、6月には米朝首脳会談が予定され、この話し合いの結果によっては、朝鮮半島を含む北東アジアの情勢に大きな影響を与える。南北会談に先立ち、4月末には、金正恩委員長が、ICBM発射実験や核実験の停止、北部核実験場の廃止を表明した。

日本では、北朝鮮の核実験やミサイル実験を口実に「日本の防衛力を高める必要がある」との論調を高めるように世論誘導が盛んになされてきたが、圧力一辺倒の外交政策が行き詰まっている。北東アジアの非核化を実現していく上でも、一被爆国日本の外交政策の現状とあるべき外交ビジョンと道筋を展望する。

日時：2018年6月10日（日）13:00－15:00

会場：平和と労働センター8階会議室（東京都文京区湯島2-4-4）

主催：核戦争に反対する医師の会

（連絡先） TEL：03-3375-5121
panw@doc-net.or.jp